



画期的

ナース母豚フィーダー

子豚の生理にピッタリ
1時間ごとの給餌管理

ミルキーウィーン フィーダー®

産子数が多すぎると里子やナースに期待しますが、
母豚の負担は軽減されません。
小さな子豚を集めてナース母豚の代わりに働く特殊フィーダーが
ミルキーウィーンフィーダー®です。

※詳しくは弊社ホームページをご覧ください。



電源：単相 230V 50Hz
オプション：トランスフォーマー (1KVA)50/60Hz
●100V→230V
●200V→230V
別途水道配管が必要です。

ミルキーウィーンフィーダーは1台で25~45頭もの子豚をナースできる特殊なフィーダーです。
温かい練り餌が与えられるので子豚の嗜好にぴったりです。

●一般的な使用パターン

- ① 生後7日令前後から通常の離乳日令までのナースで増体を期待します。
- ② 授乳期後半の母豚の負担軽減として哺乳中盤で寄せ集めてナースします。

●ミルキーウーンフィーダー®のしくみ

- ホッパーにはミルクなどの乾いた飼料を入れ、1時間に10分以上、上部のモーターが回ることで、下皿に水と混ざったリキッドが送りだされます。
- ただし10分間常に出続けるのではなく、下皿のセンサーも機能してストップします。
- 1日24時間、休むことなく子豚に給餌を続けることができます。これは母豚が母乳を毎時間与えるのと同じで、しかも母豚のように給餌にあわせて音（声）で知らせます。
- 給餌量を増やすには簡単にダイヤルを回すだけです。



（左）プラスチック板の上に置かれたフィーダー（蓋付き）上部のピンク色のコントロールボックスがシャフトを回してしばらくすると温水（50度）と混ざった練り餌（リキッドフィード）が出てきます

（右）ホッパーの中をのぞくとシャフト、オーガーとナイフが見えます

●設置

- 子豚の最適な環境が必要です。一般には特設ナース小屋（あるいは離乳舎）を用意します。農場によっては分娩クレートを撤去して改造する人もいます。
- 特に温度、換気などデリケートな環境は必須です。28～30℃くらいがベスト。
- 円形フィーダーですので、ペンの中央、付属のプラ板の上に固定します。
- ペンのトレイの高さは4日令以上であれば全く問題ありません。
- 電源：200Vの電源を使用します。メーカーのイギリス電気事情と異なるため同梱包の変圧器（トランスフォーマー）を経由して農場の通常コンセントを利用することをお勧めします。また100V→230Vの変圧器を利用すれば100Vの電源の農場でも使用可能です。
- 水は通常の給水ホースをつなぎます。メーカー推奨水圧は0.2Mパスカル～0.6Mパスカルですが、水圧が低すぎると、餌が詰まって問題が出る可能性があります。

●飼料の投入と水の管理

- リキッドフィードではないので傷むことは少ないですが、餌の鮮度を保つために毎日適量の人工乳をホッパーに投入します。
- フィーダーのスイッチをオンするとオーガーが回って餌を攪拌します。温度スイッチが入っていると温度が上がってから回り出します。温かいリキッドが少しずつトラフに出てくるので、小さな豚でもすぐに寄ってきます。
- 給餌のコツ「少しずつ与え、頻りにチェック」が基本です。出し過ぎると下痢気味になりますが、ほとんどが過食性のものです。
- 投入する飼料は毎日新鮮なものを適量投入します。濡れた飼料は厳禁です。

《お問合せ》

全農畜産サービス株式会社 資材事業部資材課

Tel 03-5245-4871 fax 03-5245-2424

《輸入・出荷元》グローバルピッグファーム株式会社